

|            |   |            |            |      |    |      |    |                    |                |              |             |
|------------|---|------------|------------|------|----|------|----|--------------------|----------------|--------------|-------------|
| 2020年度後期   |   | 知の市場（シラバス） |            |      |    |      |    | 継続                 |                |              |             |
| 科目No.      | 関連講座JK454   | 科目名        | 持続可能な社会と環境 |      |    |      | 副題 | リスクマネジャが読み解く地球環境問題 |                |              |             |
| 連携機関名      | 日本リスクマネジャネットワーク   | 水準         | 基礎         | 教室定員 | 25 | 配信定員 | 0  | 講義日時               | 日曜日13:30~16:30 | 拠点<br>(開講機関) | 大阪大学中之島センター |
| 科目概要(300字) | 21世紀は「環境の世紀」といわれ、地球温暖化を含む気候変動、生物多様性の喪失、水や食品の安全性など、人間を取り巻く環境にひそむリスクについての議論が世界的に高まっている。本講座では、複雑で多様な地球環境問題について、過去から教訓を得ながら現在、将来のことを、最新のトピックスや身近な関心事も交えながらリスクマネジャの視点から解説し、「持続可能な社会と環境開発目標（SDGs）」の実現に向け、そのための知識と感性を身につけることを目標とした講義を提供する。 |            |            |      |    |      |    |                    |                |              |             |

| 科目構成         | No. | 講義                      | 講義概要(150字以内)  | 講義日        | 開講場所              | 取締め者  | 講師   | 所属・分野  |
|--------------|-----|-------------------------|---|------------|-------------------|-------|--|--|
| リスクを学ぼう      | 1   | リスクとは リスクと便益            | 「リスク(Risk)」について一般的には「危険」と日本語訳されているが、他にも多くの表現があり、英語表記についても種々ある。研究者によって異なるさまざまな定義にもふれる。また、日常生活の中で遭遇するリスクの種々な様相について思い起こし、受講者同士の意見交換も行う。  | 2020/11/1  | 大阪大学中之島センター 201号室 | 宮崎 隆介 | 宮崎 隆介  | 日本リスクマネジャネットワーク代表<br>元大阪市 下水道                        |
|              | 2   | リスク分析と評価                | 特定したリスクを“事態の起こりやすさ(発生確率)”と“事態が発生した場合の影響の大きさ(重大性)”の二つの要素で、定量的、或いは定性的に算定を行い、そのリスクに対する対応の要否や、相応しい対応の仕方を導く手法を学ぶ。  |            |                   |       | 古沢 啓一  | 日本リスクマネジャネットワーク理事<br>元新明和工業(株) 環境マネジメント              |
| 持続可能な社会を知る   | 3   | 地球温暖化の動向                | 地球温暖化のもたらす脅威は世界的な共通認識となり、対応をめぐり国際的な交渉が続けられ2015年12月にパリで新しい枠組みが決められた。2100年に気温上昇を2℃以下とする共通目標をもたらしIPCCの報告について学び、地球温暖化の現実が持たない状況を迎えている中、国際的な協力関係の動向と課題を理解する。                                       | 2020/11/8  | 大阪大学中之島センター 201号室 |       | 石橋 博   | 日本リスクマネジャネットワーク理事<br>ISO審査員                          |
|              | 4   | SDGsと私たちにできること          | どうしたら良いだろう？と世界の国々がみんなで考えた17の目標とは？ SDGsはなぜ必要なの？ 日本の取組はどうなっているの？ SDGs達成に向けて、私たちが家の中や家の外でできることは？   |            |                   |       | 池田 博幸  | 日本リスクマネジャネットワーク監事<br>有機材料化学 特許調査                     |
|              | 5   | 企業の社会的責任 (CSR)          | 昨今、利潤の極大化、顧客の満足、株主価値の拡大、これらが「企業の社会的責任」と限定する人は少なくなってきたが、その認識は人や時代により多種多様である。戦後の復興期における責任課題から、「地球環境保全」「SDGs」「ESG投資」といった最新のグローバルな課題に至る「企業の社会的責任 (CSR)」の遷移を辿り、企業のあるべき姿を考える。                       |            |                   |       | 古沢啓一   | 日本リスクマネジャネットワーク理事<br>元新明和工業(株) 環境マネジメント              |
| 環境に係るリスクを学ぼう | 6   | 化学物質のリスク管理              | 化学物質のリスクは何かを解説し、化学物質リスクの評価方法、化学物質に関連する我が国の法体系を述べる。具体的な国内、海外の化学物質に関する法規制についても触れる。化学物質により引き起こされた最近の事故例とその対策および残っている課題について考える。   | 2020/11/15 |                   |       | 奥村 勝   | 日本リスクマネジャネットワーク理事<br>(公社)大阪技術振興協会 理事<br>エコアクション21審査員 |
|              | 7   | 医薬品の環境影響                | 私たちが使用する医薬品が環境・生態系に対してどのような影響を及ぼしているかを理解し、環境リスクマネジメントの観点から対応策のあり方について論じ、環境に対する影響を心配することなく安心して必要な医薬品を使用することができるようにするにはどうしたらよいかを考える。  |            |                   |       | 東 泰好   | 日本リスクマネジャネットワーク理事<br>元アストラゼネカ(株) 環境毒性<br>農学博士        |
|              | 8   | 廃棄物と暮らしへのリスク            | 戦後経済の高度成長に伴う、大量消費/廃棄によるごみ問題を解決するために廃棄物処理法が昭和45年に制定され、生活環境の保全や公衆衛生の向上を目指したが、その後様々な予期せぬ問題が発生し改訂されてきた。その経過で、いかに生活リスクに対応してきたかを学びます。放射性廃棄物やマイクロプラスチックにも触れる。  |            |                   |       | 遠藤 憲雄  | 日本リスクマネジャネットワーク理事<br>元(株)タクマ 廃棄物                     |
|              | 9   | 環境に関する法律の機能と限界          | 環境に関する法律には大気汚染防止法等多数ある。これらの法律は、被害発生等の事象が起こった後、法的対応を必要とする世論、政治的な動きがあり制定される。制定された法律には被害発生未然防止機能があるが、事前にあらゆる事象を想定することは不可能であり法律の前記機能には限界もある。これらの事を中心に説明する。  |            |                   |       | 砂川 辰彦  | 日本リスクマネジャネットワーク理事<br>谷町法律事務所 弁護士                     |
|              | 10  | 水と大気の汚染                 | 日本でもかつては水と大気の公害により健康被害が発生したが、経済優先ではなく環境優先を明確にし、法整備などの有効な対策により公害は改善されてきたことを解説する。しかし環境リスクはなくなっただけではなく、水質事故や公害苦情処理を事例にリスク管理について考える。  | 2020/11/22 | 大阪大学中之島センター 301号室 |       | 刑部 忠彦  | 日本リスクマネジャネットワーク理事<br>(株) ニュージェック 下水道                 |
|              | 11  | 土壌汚染に関する土地取引上のリスクマネジメント | 土壌汚染により生じるリスクは、環境リスク(化学物質が環境を経由して人の健康や生活環境、生態系に悪影響を及ぼすおそれ)だけでなく、土地取引においては、土壌汚染に関する土地取引上のリスク(資産価値の低下、損害賠償、契約解除など)に係る適切なマネジメント(不利益を生じるリスクを極小化する)を確立することが必要となる。                                  |            |                   |       | 久保田俊美  | 日本リスクマネジャネットワーク副代表<br>元積水ハウス(株) 土壌汚染                 |
| 環境の最新事情      | 12  | 農業と食の安全                 | 農業の実情を老齢化と後継者難から、今後の持続可能な農業の在り方を述べ、商業生産における農業の役割を健康影響からとらえる。また、食糧自給率と食糧安全保障をリスクマネジメントから考え、今後の農業と食を考える。(無農薬栽培の価値と野菜工場や新たなたんばく源など最新の知見を紹介する)  | 2020/11/29 |                   | 西村 庄司 | 日本リスクマネジャネットワーク理事<br>(株) 環境総合管理機構 取締役<br>農業担当 環境モニタリング |  |
|              | 13  | 行政からみる環境事情              | 基礎自治体である吹田市において、リスクの視点を踏まえて、先進的に取り組んでいる環境まちづくりやヒートアイランド対策、フューチャー・デザインをはじめとした環境に配慮したまちづくりについて、事例を活用して説明をします。また、地球温暖化の対策として、市民への再生可能エネルギーの普及促進策などの環境取組についても、説明します。                              |            |                   | 楠本 直樹 | 日本リスクマネジャネットワーク<br>吹田市 環境影響評価                          |  |
|              | 14  | 環境のビジネス事情               | 環境リスクマネジメントを学び、土壌汚染に係る分析、コンサルティングを主体とした(有)環境総合管理機構を12年前に起業した。その後、水処理対策やAIによる放射線計の開発などの事業分野を拡大し、近年は食料安全保障の視点で環境を配慮した高付加価値農産物の研究開発で農業事業に進出、インドネシアやフィリピンなど海外の水環境問題解決にも取り組む。最前線の経営者による視点で話題を提供する。 |            |                   | 新田 恭司 | 日本リスクマネジャネットワーク<br>(有) 環境総合管理機構 代表取締役                  |  |
| リスク演習        | 15  | リスク抽出・分析・影響度・対策         | 予告されたリスク課題に対し、各自が想定した個人や家族、職場や地域や行政の立場に合わせた「リスク分析、評価」を試み、リスクに対する対応の要否や、相応しい対応の仕方を導くまでの手法を演習によって実体験する。   | 2020/12/6  | 大阪大学中之島センター 201号室 | 講師全員  |  |  |

リスクマネジャ： リスクマネジャは、日本リスク研究学会（1988年創立）認定の「リスクマネジャ養成プログラム（\*）」を修了し、同学会に登録されたものに与えられた認定資格です。部科学省科学技術振興調整費 新興分野人材養成高度環境管理プログラムとして採択され、大阪大学大学院 工学研究科（環境・エネルギー専攻）が運営したものが、初めて認定「リスクマネジャ養成プログラム」になりました。

(\*)文